

愛と慈しみのこもった医療を すべての人に。

聖母病院は博愛と奉仕、科学的治療と精神的慰安を病める人々に与えることを目的として、1931年に創立されました。以来、カトリック教会の倫理に基づいた「人にやさしい医療」を目指しつつ、変遷する時代と地域のさまざまなニーズに対応してきました。

現在では、国内有数の分娩数を誇る周産期医療をはじめ、乳児期を含めた幅広い小児医療、日本人に多い消化器がん・乳がんなど、がん医療に尽力しています。また、高齢者の在宅医療を支援する地域包括ケア病棟、病気の早期診断・早期治療を目指す健診部を設置し、15の診療科と多職種の職員が協力して質の高い医療を提供しています。

当院の基本理念は「愛と慈しみのこもった医療をすべての人に提供する」というものです。この理念は、医学的な知識と技術を利用して病気を治療するのみならず、病を抱える人の心理や社会的側面にも配慮しながら医療を提供することの重要性を強調するものです。また、医学が進歩し多くの疾患治療が飛躍的に進歩した現在でも、治療が困難な病気や長期療養が必要な病気が依然として数多いことも事実です。理念に基づき、患者さんの精神的なケアを含めた全人的な医療およびサポートがより重要と考えています。

当院は、患者さんから「病院らしくない病院」と評されることがあります。二つの塔をもつタイル張りの建物、絨毯敷きの広い廊下、季節の花々の咲く広い庭、荘厳な大聖堂などが相まって、通常の病院とは異なる和やかな雰囲気を出しています。今後も患者さんの心と身体に寄り添う包括的な医療を目指し、地域の皆様に安心と信頼を提供すべく尽力してまいります。

病院長 宮越 敬

理 念

愛をもって病める人を癒されたキリストにならい、国籍、信仰、貧富を問わず、心の通う医療を提供して病める人々の身体的、精神的、社会的、霊的ニーズをみtas。

基 本 方 針

1. 生命を尊重し、最善の医療をおこないます。
2. 地域医療機関および福祉施設等と連携し、安心できる医療をおこないます。
3. 病院の理念に基づいて質の高い医療人を育成します。

患者様の 権利と責務

■ 患者様には次の権利が保障されています。

1. 平等かつ適切な医療を受けられます。
2. 人権が尊重されます。
3. 病気、治療について十分な説明を受けられます。
4. 医療内容を選択または拒否できます。
5. 個人情報やプライバシーが守られます。
6. セカンドオピニオンを求めることができます。

■ 患者様へのお願い(責務)。

1. 適切な医療を受けるために、健康(病状)に関する情報を正しくお知らせください。
2. 医療行為に関して納得したうえで意思を明らかにし、指示に従ってください。
3. お互いによりよい治療と療養生活を送るために、定められた規則を守ってください。

消化器疾患・呼吸器疾患・糖尿病など幅広い分野で、患者さんに寄り添った専門医療を行っています。

内科領域各分野の専門医が連携し、さまざまな疾患に対する専門性の高い医療を行うと同時に、患者さんに寄り添った医療を目指しています。消化器領域では、上部・下部消化管内視鏡検査やCT、MRIなどの画像診断を併用し、疾患の早期診断・治療に努めています。呼吸器領域では、慢性閉塞性肺疾患(COPD)を含めた慢性疾患および急性期疾患に対応しており、気管支鏡検査や肺生検などの精密検査も行っています。代謝・内分泌領域では、豊富な治療経験を生かした妊娠糖尿病の管理・治療を行い、妊娠甲状腺機能スクリーニングの精査機関に指定されています。



CTによる検査



年間2,000件以上にのぼる内視鏡検査



外来での診察風景

身体的・精神的負担の少ない腹腔鏡や血管病治療、術後も考慮した乳がん手術に取り組んでいます。

経験豊富な消化器外科専門医や消化器内視鏡専門医、消化器がん治療認定医が常勤し、消化器疾患全般に対応。腹腔鏡手術や内視鏡による治療を積極的に行い、患者さんの身体的・精神的負担を少なくするよう努めています。血管外科では傷が小さく縫う必要のない下肢静脈瘤の血管内レーザー治療を行い、乳腺外科では創の目立たない術式による乳房温存療法や乳房切除術と同時に再建を行うなど、根治性はもとより術後の審美性も考慮した手術に取り組んでいます。また、マンモグラフィーは必ず女性技師が撮影しています。



検査した画像の診断



腹腔鏡による外科手術シーン



最新鋭のMRI 3テスラ(磁気共鳴画像)



女性技師が撮影する三次元マンモグラフィー

年間1,500件以上の分娩を支え、 不妊相談や婦人科疾患にも対応しています。

聖母病院は、年間分娩数が1,500件以上にのぼる都内有数の“お産の病院”として高い評価を得ています。経験豊富な産婦人科医師と助産師、看護師が一体となって、きめ細かな医療を提供するとともに、ご希望の方には無痛分娩にも対応しています。また、婦人科疾患や不妊症の検査・治療も行っています。



緊急帝王切開術にも24時間対応



無事に出産を終えた母子



妊婦健診では毎回、担当医が診察します



赤ちゃんの誕生をお祝した「お祝い膳」とお品書き

メニューは季節によって変わります

“子どもの総合医”として病気の治療だけでなく、 健診や予防接種、子育て相談にも対応しています。

当院小児科は、“子どもの総合医”として、病気の治療だけでなく、乳幼児健診や予防接種、子育て相談にも親身に対応しています。小児科全般の診療のほか、アレルギー外来、神経外来、心臓外来、新生児フォローアップ外来などの専門外来を設置しています。出生後の新生児の診療は小児科医と専任の看護スタッフが担当し、“母と子にやさしい医療”を心がけています。



赤ちゃんの健康状態をチェック



小児科外来での診察風景



病気の赤ちゃんのケア



乳幼児健診シーン

地域医療連携に寄与して より良い医療の提供に努めています。

患者さんにより良い医療を提供するため、地域連携部では地域の医療機関や福祉施設等と密に連携し、地域医療連携を推進しています。患者さんの紹介や入院に関する問い合わせ、他の医療機関や介護・福祉施設の紹介、退院調整など幅広い活動を行うとともに、ソーシャルワーカーが医療相談に対応し、患者さんの抱えるさまざまな問題の改善・解決に貢献しています。



医療相談に応じるソーシャルワーカー



地域連携部のスタッフによるカンファレンス



リハビリテーション科のスタッフ



患者さんのリハビリテーションを支援

健康維持や疾患の予防・早期発見に 貢献しています。

健康維持や疾患の予防・早期発見につながる健康診断の重要性が叫ばれています。健診部は充実した施設、設備、人員を備え、地域の皆様に正確な健康情報を提供しています。一般健診(就学・就職健診、個人向けがん検診)のほか、区民健診・がん検診(新宿区・中野区)、特定健康診査(メタボリックシンドローム)、さらに、企業健診にも対応しています。また、がんや脳卒中、心臓病などの早期発見・早期治療を目指した人間ドック(半日)も実施しています。



人間ドック受診者への結果説明



健診部の待合室



健診部外観



健診部の受付カウンター

患者さんとそのご家族に寄り添う “思いやりのある看護”がモットーです。

聖母マリア様の愛にならい、看護の専門性を発揮し、患者さんに寄り添い、心の通う信頼される質の高い看護が提供できるように日々努力しています。“寄り添う”ことは、言葉では簡単ですが実践は難しいものです。患者さんやご家族と向き合うには、看護者自身が心身ともに健康で、聴く力や内省力を持っていなければなりません。そのため、看護師、助産師としての態度・知識や技術の向上に努めています。当院の看護職員それぞれが互いを思いやり、温かい雰囲気が特徴です。



多職種によるナースステーションでのカンファレンス

教育

思いやりと責任を持ち、
自ら考え行動できる看護者を目指して。

当院はアドバンス助産師と高齢者支援に強い看護者の育成に力を入れています。そのために「倫理的感応力」、「看護ケア能力・マナティケア能力」、「専門的自律能力」からなる独自の助産師クリニカルラダーおよび看護師クリニカルラダーによって、新人レベルからレベルⅣまで5段階に設定した目標に向かって研修や自己研鑽をしています。特に、私たちに求められる傾聴スキルや倫理等については、必須研修に位置付けています。また、2年目、3年目の看護者を対象に内省力・看護観を深めるために「看護を語る会」、「ケース・スタディ」を大切にしています。



新人教育

確実にスキルアップできる研修とチームで新人を支えています。

各職場の教育担当者が中心となって教育プログラムを計画し、集合教育と現場とのかい離がないように工夫しています。さまざまな経験年数の先輩たちがチームとなり、1人の新人を支えています。また、年に3回程度、お茶を飲みながらお話を聴く場(虹色カフェ)を設け、心のサポートも行っています。



採血の演習風景



部外のスタッフが新人看護師の話に耳を傾け心のサポートをします

聖母の看護

その人らしさを尊重した看護を提供しています。

聖母病院の看護は、患者さんの生涯の過程に関わる中で、その人らしさを尊重し、支える看護を提供します。地域包括ケアシステムにおける一般病院としての役割を果たし、地域との連携を深めつつ、切れ目ない看護を実践することを目指しています。



高齢者看護では“その人らしさ”を尊重したケアを実践しています



助産師は産婦さんにきめ細かなケアを実践しています



手術室では術前から術中・術後と継続して看護を行います



より詳しい情報は聖母病院看護部の
ホームページをご覧ください。

患者さんのアメニティと スタッフの働きやすさに定評があります。

車椅子同士がすれ違っても余裕のある幅広い外来棟の廊下。シックな木目調のインテリアで統一された外来待合室。明るく清潔感が漂う広々とした病室。眺望のよい快適なレストラン。聖母病院は、患者さんのアメニティを優先させた造りになっているだけでなく、スタッフにとっても快適で働きやすい職場であることが特徴の一つです。



広々としたゆとりのある外来棟の廊下



シックで落ち着いた雰囲気の外來待合室



キッチン付きの快適な個室



5階にあるレストラン「シャローム」

カトリック系病院ならではの 特色を有しています。

聖母病院は敷地内に大聖堂を設け、毎日ミサ聖祭を行っているのが大きな特色です。また、肉体的・精神的・社会的苦痛の緩和および患者さんのQOLを高めるために不可欠なパストラルケア（霊的ケア）を行っています。さらに、外国人の患者さんが多いことから、受付カウンターには多言語の通訳ガイドが常駐しています。



大聖堂外観



大聖堂で行われる「アベマリアの夕べ」の模様



パストラルケアワーカーによる病室訪問



通訳ガイドが常駐している受付カウンター

聖母マリアの愛と慈しみが 脈々と流れる聖母病院の歩み。

- 1929(昭和4)年
聖母会の前身「マリア奉仕会」(マリアの宣教者フランシスコ修道会が社会奉仕のために設立した会)が聖母病院の建設に着手。設計はスイス人の建築家マックス・ヒンデル。当時の住所は東京府豊多摩郡落合町大字下落合670。
- 1931(昭和6)年12月21日
聖母病院開院。現在の2つの塔がそびえる建物の部分が東京市の許可により国際聖母病院として発足。当初の診療科目は内科、小児科、外科、皮膚泌尿器科、物量X線科。病床数は72床。
- 1932(昭和7)年
産婦人科を設置。
- 1933(昭和8)年
耳鼻咽喉科を設置。
- 1933(昭和8)年11月
ベネディクト病棟増築。90病床となる。
- 1940(昭和15)年8月
ヨゼフ病棟増築。113病床となる。
- 1943(昭和18)年8月
戦時中のため病院名から「国際」の文字を削除。
- 1946(昭和21)年10月
フランシスコ病棟増築。137病床となる。
- 1948(昭和23)年3月
アンナ病棟増築。152病床となる。
- 1950(昭和25)年2月
救急病院として指定される。
- 1952(昭和27)年10月
社会福祉事業法の制定に伴って「生活困難者のために無料または低額な料金で診療を行う施設」の適用対象となり、法人格を取得して社会福祉法人聖母会聖母病院と名称変更。
- 1959(昭和34)年3月
鉄筋4階の病棟を増築し、204病床となる。
- 1963(昭和38)年4月
鉄筋地上4階・地下2階の診療棟が完成。眼科、神経科、歯科を加え総合病院となる。
- 1969(昭和44)年2月
明治百年記念叙勲において聖母会理事長ほか3名が叙勲受章。
- 1972(昭和47)年4月
職員食堂、女子職員更衣室等と1階病棟一部増改築を含めて地下1階を増築し、209病床となる。
- 1978(昭和53)年5月12日
アンナ病棟を医師研究棟とし、192病床となる。
- 1980(昭和55)年6月
カリタスジャパンの依頼で、タイの難民および国境地区の住民巡回診療に医師・看護師を派遣。
- 1980(昭和55)年11月
リハビリテーション相談室を新設。
- 1981(昭和56)年12月21日
聖母病院創立50周年記念式典を挙行。
- 1985(昭和60)年4月30日
エレナ棟増築。192病床となる。
- 1986(昭和61)年1月1日
放射線科を新設。
- 1987(昭和62)年
在宅ケア(訪問看護、在宅リハビリ)を開始。
- 1998(平成10)年12月28日
療養型病床群を開設。173病床となる。
- 1999(平成11)年12月1日
聖母訪問看護ステーションを開設。
- 2000(平成12)年5月15日
公益財団法人日本医療機能評価機構病院機能評価(Ver3.1)認定取得。
- 2001(平成13)年7月1日
看護師宿舎「アスンタハイツ」(59室)が完成。
- 2002(平成14)年12月27日
病院新棟の一部が完成。164病床となる。
- 2003(平成15)年7月29日
本館が東京都選定歴史的建造物に選定される。
- 2004(平成16)年4月1日
病院増改築工事が完成。154病床(一般121床、療養33床)となる。
- 2005(平成17)年4月
オーダリングシステムを導入。
- 2005(平成17)年5月30日
公益財団法人日本医療機能評価機構病院機能評価(Ver4.0)認定更新。



- 2006(平成18)年2月28日
療養病棟を廃止し一般病棟とする(病床は一般154床)。
- 2009(平成21)年4月1日
医療安全管理室を設置。
- 2009(平成21)年7月1日
DPC(包括評価方式)対象病院となる。
- 2010(平成22)年4月1日
神経科を精神科に名称変更し、乳腺外科を新設。13診療科体制となる。
- 2010(平成22)年6月1日
健診部増築および聖堂改築工事が完成。
- 2010(平成22)年8月6日
公益財団法人日本医療機能評価機構病院機能評価(Ver6.0)認定更新。
- 2010(平成22)年10月1日
地域医療連携室を設置。
- 2011(平成23)年4月1日
情報システム室を設置。
- 2014(平成26)年10月1日
地域包括ケア病棟運用開始(2階病棟47床)。
- 2015(平成27)年8月7日
公益財団法人日本医療機能評価機構病院機能評価(3dG:Ver1.0)認定更新。
- 2017(平成29)年5月1日
消化器内視鏡内科、病理診断科を新設。15診療科体制となる。
- 2018(平成30)年7月1日
電子カルテを導入。
- 2019(令和元)年10月1日
MRI 3テスラ更新。
- 2019(令和元)年11月1日
緩和ケアチーム発足。

- 指定医療施設
協力型臨床研修指定病院
難病医療費助成指定医療機関
指定小児慢性特定疾病医療機関
出入国管理及び難民認定法に基づく指定医
東京都肝臓専門医療機関
東京都神経難病医療協力病院
無料低額診療事業
- 学会施設認定
日本乳癌学会認定施設
エキスパンダー実施施設
日本整形外科学会認定医制度研修施設
ペインクリニック専門医指定研修施設
麻酔科認定病院
日本皮膚科学会認定専門医研修施設
優良総合健診施設
- 学会施設指定
日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設



東京都の歴史的建造物に選定されている本館(左)と正面玄関



地域のシンボルとして 心の通う医療を提供し続けます。

病 院 概 要	設置者	社会福祉法人 聖母会 理事長 塩塚俊子
	経営母体	マリアの宣教者フランシスコ修道会
	病院長	宮越 敬
	診療科	内科、外科、整形外科、泌尿器科、産婦人科、小児科、耳鼻咽喉科、精神科、眼科、皮膚科、放射線科、麻酔科、乳腺外科、消化器内視鏡内科、病理診断科
	病床数	一般154床
	外来患者数	1日平均約650名
	職員数	約300名
	分娩数	年間1,500件超
	手術件数	年間約1,400件

【フロア案内】

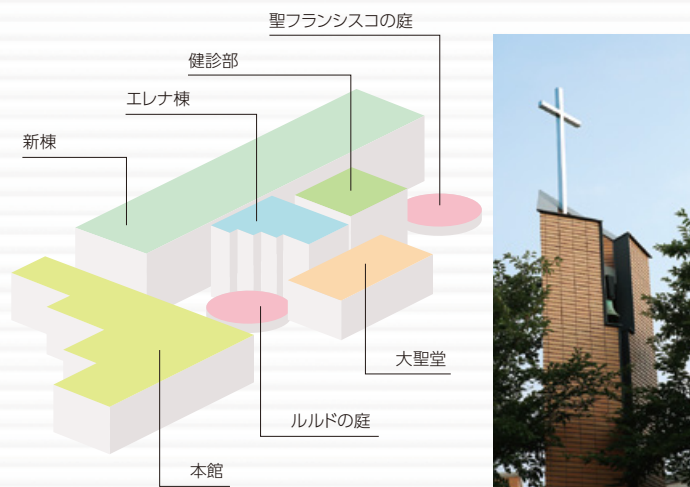
	新 棟	本 館	エレナ棟	健診棟	別 棟
5F	講義室 レストラン「シャローム」				
4F	4階病棟(一般46床)				
3F	3階病棟(一般46床) 分娩室	3階病棟	新生児室(15床)		
2F	2階病棟 (地域包括ケア47床)	リハビリテーション科 びざ健診室 パストラルケア室 聖堂	ペインクリニック 外来化学療法室 聖母訪問看護ステーション	乳腺外科診察室・計測室・ 生理検査室・エコー室・ X線撮影室 (胸部・マンモグラフィー)・ 保健指導室	
1F	総合案内 外来(内科、外科、 乳腺外科、産婦人科、 整形外科、耳鼻咽喉科、 眼科、泌尿器科) 中央処置室 救急室 医事課	精神科外来 事務室 売店 地域連携部 相談室 患者相談窓口	小児科外来 皮膚科外来	受付窓口(健診事務室) 内科診察室・婦人科診察室・ 採尿室・採血室・更衣室	大聖堂
B1F	手術室 画像検査科 内視鏡室 検査科 診療情報管理課 母子保健室 授乳室				
B2F	薬剤科 栄養科 厨房 資材課 小聖堂(豊安室) ME科 リネン室 施設課 栄養相談室				



ルルドの庭



聖フランシスコの庭



「生命への包容力」をテーマとした外壁レリーフ